

●担当：楨正智、笹館宏美（山形県青年海外協力協会）

日野香織（山形県国際交流協会）、三澤香織（JICA 山形デスク）



●協力者：石井康記、佐藤博亮、岡部幸子、山形又三、佐藤麻衣（山形県青年海外協力協会）

●分科会の狙い・目的


- ・海外協力隊に行くことによって、人生の様々な選択肢が増えることを知ってもらう
- ・海外協力隊に興味をもってもらい、将来的に参加者の中から海外協力隊に応募する人が出てくる

●参加者：45名

#### 1. 分科会内容と成果・結果

活動内容	詳細
<p>アイスブレイク *ファシリテーター：楨正智</p>	<p><u>アイスブレイク1：イスラマ語によるグループ作り</u> ファシリテーターがイスラマ語とジェスチャーを交えて指示を出し、参加者がその意味を想像してグループをつくる。（中学生、高校生、それ以外の人）</p> <p><u>アイスブレイク2：挨拶</u> 挨拶を四種類紹介し、司会者の合図をもとに参加者同士が様々な順番で挨拶をして回る。 (1.お早うございます 2.名前 3.どこから来たのか 4.ハイタッチ)</p> 
<p>パネルトーク *司会者：楨正智</p>	<p>パネリスト：日野香織さん（ジンバブエ派遣/音楽、ウガンダ派遣/行政サービス） 佐藤博亮さん（マラウイ派遣/コミュニティ開発） 石井康記さん（グアテマラ派遣/体育）</p> <p>① <u>自己紹介</u></p> <p>② <u>派遣前の職業は？（何をしていたでしょう？）</u> それぞれのOVが隊員前は何をしていたのか、参加者に想像し答えてもらう。</p> <p>③ <u>任地の様子・活動内容、苦勞したこと</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日野：（裕福な黒人の通う）女子高校で音楽を指導。 教員経験が無かったので、毎回授業内容をすべて英語に書き出し練習してから授業に臨んだ。現地の人と同じ生活をすると決めていたので、三食牛肉の食事では体重が10キロ増えた。</li> <li>・佐藤：コミュニティ開発といっても具体的な仕事は無く、自から課題を探し活動した。 農村部では家庭燃料である薪を得るために森林伐採が問題となり、家事や家計の負担にもなっていたので、熱効率の良い泥カマド作りの指導を行った。マラウイでは様々な援助機関が活動していたので、人々は外国人に慣れてしたが、「何をしに来たのか？」と聞かれることが多々あった。イギリスの植民地だったため英語が公用語だったが、村ではチェワ語が主で当初はコミュニケーションをはかる</li> </ul> 

	<p>のに苦勞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石井：体育教員を養成する学校で指導。 最初は言葉に苦勞。赴任した最初の6週間は語学研修を受け、その後は仕事をしながら自費で学校に通う。日野さんと同様に、授業内容をすべてスペイン語に訳して練習し授業を行った。</li> </ul> <p>④ <u>協力隊参加の動機・きっかけ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日野：大学生の時に合唱団としてマレーシアで公演し、その後バックパッカーとしてインドを旅行。海外で教員として活動したいと思った。</li> <li>・佐藤：高校生の時、国際協力を仕事にしたいと思った。 大学で、民族紛争は貧困に原因があると感じ、自分の目で見てみたいと思った。銀行で法人営業の仕事をしていて、「これで良いのか」と疑問に思い応募した。</li> <li>・石井：中学生の頃からアメリカに行きたい夢があった。大学生の時、寮の友人がクロスロードを定期購読しており、協力隊を知る。協力隊ならお金がかからないと思った。</li> </ul> <p>⑤ <u>二年間の経験の後、どんな職業に就いたのか（現在の仕事は何でしょう？）</u></p> <p>これまでの話を聞いて、参加者に現在の職業を想像して答えてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日野：山形県警、音楽の先生 ⇒山形県警察本部 外国人被疑者・被害者の通訳（英語、スペイン語、中国語） ジンバブエで色々な人に助けられたので、日本に住む海外の人をサポートしたいと思った。採用までに時間があつたので、スペイン語のブラッシュアップの為にグアテマラの語学学校に留学。採用後も、中国語の必要性を感じ、中国語を勉強。 したい事を、したい時にやっておくこと。我慢すると機を逃す。</li> <li>・佐藤：カタカナの仕事、ソーラーパネル製作、環境の取り組みをする仕事 ⇒ソーラーワールド株式会社（再生可能エネルギー機材にかかる）営業、海外取引先との業務調整、通訳、翻訳 マラウイでの活動からライフラインの大切さを学び、再生可能エネルギーに興味を持ち現職に就く。将来はこの分野で途上国の発展に貢献したいので、経験を積みたいと思う。「国際協力」という仕事は無く、その先の専門性が必要。</li> <li>・石井：会社の社長さん、リハビリ関連の仕事、理学療法士 ⇒株式会社アジュダンテ（訪問看護リハビリステーション）を起業 代表取締役、理学療法士 協力隊活動中に理学療法士になることを決意。帰国後、専門学校にて3年間修学。 地元での病院、訪問看護ステーション勤務を経て起業。社名のアジュダンテは、スペイン語で「支える人」という意味。</li> </ul> <p>⑥ <u>経験から活かされていること</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日野：外国語が話せるようになった。貧しい国の暮らしを理解した。外国に住むということがどのような気持ちか分かった。</li> <li>・佐藤：エネルギーの重要性を、身をもって体感した。世界で起きていることを身近に感じるようになった。語学力が向上した。</li> <li>・石井：ゼロから作りあげるフロンティア精神。大抵のことではへこたれない、強靱な精神力。孤独に耐えられる精神力。</li> </ul>
<p>グループトーク *ファシリテータ</p>	<p>グループトークの前に、改めて7人のOVから派遣国と職種、帰国後の職業等を自己紹介してもらう。</p>

<p>ー：各OV</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山形又三さん（トンガ王国派遣/電子工学、定年退職参加）</li> <li>・岡部幸子さん（ドミニカ共和国派遣/野菜、定住外国人支援）</li> <li>・佐藤麻衣さん（セネガル共和国派遣/野菜、就職活動中）</li> </ul> <p><u>グループトーク</u></p> <p>参加者に国や職業など興味のあるOVのテーブル（7テーブル）に移動してもらい、自由に質疑応答してもらう。</p> <p><u>各OVから参加者へのメッセージ「あなたにとっての協力隊とは？」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・榎：人との出会いを増やしてくれる窓口。</li> <li>・岡部：人生の原点。（たかが2年、されど2年。国内でも活動できる）</li> <li>・日野：漢字一文字で表すと「宝」（一生隊員でも良いと思った。）</li> <li>・石井：人間力を形成する核。</li> <li>・佐藤麻衣：視野を広げてくれるもの。（日本を見る目、世界を見る目）</li> <li>・山形：世界への窓口（協力隊参加後、途上国の捉え方が変わった）</li> <li>・佐藤：Pure joy and passion</li> </ul>	
--------------	--	---

## 2. 使用した教材や参考資料

2019年度版JICA海外協力隊事業概要

## 3. 参加者アンケート

参加者のご所属などについて(N=40)

教職員 (小・中・高・大学)	公務員	国際協力 交流団体	民間企業	中学生	高校生	大学生	その他
2	2	3	5	9	15	1	3

参加者の年代について(N=39)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
25	3	2	0	5	4

参加者のこれまでのフォーラム参加回数について(N=40)

初めて	2回目	3回目	4回以上
32	2	1	5

参加者の分科会への満足度について(N=40)

大変満足	満足	普通	あまり満足 できなかった	不満足
31	7	2	0	0

#### 4. 担当者所感

【ファシリテーター：笹館宏美（青年海外協力協会）】

昨年以上に中学生・高校生が増えて参加者の7割近くを占め、熱気溢れる分科会となった。彼らの真剣な姿勢から、これからの社会を担う若者が育っていることを実感するとともに、キャリア教育という観点から協力隊での経験を伝えることの意義を考えさせられた。

前半はアイスブレイキングとパネルトーク、後半はグループトークと大きく二つに分けた構成にした。これは、当実践フォーラムのYOCA分科会プログラムの形として整いつつあると思う。今回は中高生の参加が多かったため、予定していた進路概要説明は割愛しグループトークの時間を延ばした。それでもアンケートでは、グループトーク時間が短いとの意見が出されたので、時間配分を検討し直したい。またパネルトークでは、参加者の集中力が途切れない様に、司会者がテーブルを回りながら質問を交えて話を進めてくれたので、リラックスした雰囲気の中で話を聞くことが出来たと思う。

#### 検討事項

- ・ 質疑応答を含めたプログラムの時間配分（参加者が話す時間を多く取る）
- ・ スライド内容とトークのズレが生じない様にする（切り替えのタイミング）
- ・ 参考資料の配布（スライド資料で、配布した方が良かった）

回を重ねる毎に運営やボランティアさんの動きや協力体制がスムーズになり、充実したフォーラムになったと思う。ありがとうございました。